



ふくおか【Good】農業人100

主な農産物／トマト、キュウリ、コマツナ、ダイコン葉、山東菜 他

渡辺 正一さん (31歳) (営農地／飯塚市長尾)

多くの人に支えられて今の自分がある

《就農のきっかけ》

アメリカの生活をもう一度

県内の工業大学在学中にアメリカへ1年間の語学留学した渡辺さん。大学卒業後、サラリーマンはしたくなかったし、もう一度、アメリカに渡って生活したかったから、お金を貯めようと、当時、葉物野菜を栽培していた祖父のところでアルバイトとして農業を始めたそうです。手伝い始めたころ、地元で水耕で葉物野菜を栽培している方がいると聞き、研修させてもらえないかと直接、申し入れに行き、半年間、研修させてもらったそうです。なぜ、水耕栽培だったのか尋ねてみたところ、「かっこいいな、こういう農業もいいかな」と思ったから。半年間の研修の後、祖父のところで本格的に野菜栽培に取り組み、3年目には自分が栽培の中心になっていたそうです。

《これまでの過程》

気がつけば農業に夢中になった

「もともと農業に特別な思いがあったわけではなく、本格的に就農ということになったのも、周りの方たちが盛り上がったから。」と語る渡辺さん。「農業を知っていたら、就農しなかった。」と本音？もチラリ。葉物野菜に加えて、2aほど雨よけ夏秋トマトを作ったら良く売れたそうで、「これはお金が貯まるなあ」と思ったそうです。それ以来、おいしいトマトづくりに心がけ、今は5aのハウスで栽培中。栽培で悩んだときは、近所のトマト生産者に教えてもらうとのこと。

今年で野菜栽培を始めて7年目。これまで栽培していたほ場の一部が土地開発にかかったため、新しい土地を購入し、資金を借りて新しいハウス20aを建設。現在、雨よけハウス25aに、春～秋はトマトとキュウリの果菜類と、コマツナ、ネギ、ダイコン葉などの葉菜類を周年栽培し、露地野菜として、オクラ、ナス、キャベツ、タマネギ、ニンジン等を1ha作付け。ほとんどを地元スーパーの産直コーナーとJA産直部会へ出荷。地元スーパーへの出荷も自ら売り込みに行ったそうです。



プロフィール

- 家族構成／祖母、父、母、本人、妹
- 営農年数／約7年
- 耕作(経営)面積／約1.3ha
- 販路／JA共販、スーパーと直接取引

《これからの展望》

産直農業で夢を実現していく

「野菜作りは手を入れたら、結果が見えるので面白い。直売所は人が出さない時期にどうやって出すかけど、その時期は同じように種をまいても収量が上がらないので、端境期に出せる品種などを取りいれたい。お父さんも一緒に農業を始めることになり、その分、規模拡大したい。規格外品も近くのパン屋さんで‘もったいない野菜コーナー’で販売してもらっているの、ロスがない。いずれは自分の直売所を作って販売したい。」としっかりした口調で語る渡辺さん。将来の目標は？という質問には控えめに「やっぱり海外へ行きたい。そこでも農業かな。」って本音を教えてくださいました。今の悩みは「自分の時間が取れない」こと。



Good 成功のためのポイント

作物の様子に敏感になること。ただ、様子がおかしいことに気づいていても、他に優先することがあると後回しになりがち。対応が遅れると、その後の管理が大変。周りの助けや地域の方との交流が大切。いろいろな人と会うこと。就農するなら“やる気”が一番。